

氏名	林 信 広
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 4 4 5 号
学位授与の日付	昭和45年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	<b>キノリン誘導体の骨髓造血機能に及ぼす影響に関する研究</b>
論文審査委員	教授 大 藤 真    教授 小 坂 淳 夫    教授 妹尾左知丸

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

我々の教室では抗マラリア剤クロロキンを気管支喘息に使用しており、又その線維芽細胞抑制作用に注目して諸種悪性腫瘍にも使用し、かなりの効果をおさめているが、私は本剤の生理作用に関する研究の一端として造血機能に及ぼす影響をみる為、骨髓臨床組織培養法により磷酸クロロキンの直接添加実験を行った。

即ち白血球系造血については、家兎骨髓を用いて増生面積、遊走速度、細胞密度生体染色及び墨粒食喰能を、栓球系造血については海溟骨髓を用いて出現巨核球数及びその運動形態を、赤血球系造血については家兎骨髓を用いて赤血球数、有核細胞数、血色素量及び正染性赤芽球の変動を観察した。更に臨床的に磷酸クロロキンの長期経口投与例及び静注例につき、その末梢血液像の変動と骨髓像を観察した。

その結果、高濃度では抑制作用が認められたが、臨床的に用いられる程度の低濃度では、まず造血機能障害のないことが証明され、本剤の長期連用の可能性が示された。更に臨床例でも造血障害がみられず、このことを裏付ける成績が得られた。

(岡山医学会雑誌 第82巻 9, 10号 (昭和45年10月30日付発行) 掲載予定)

## 論文審査の結果の要旨

本研究は、抗マラリア剤クロロキンの骨髄造血機能に及ぼす影響を骨髄組織培養法を用いて研究したものであるが、臨床的に本剤を喘息ほかアレルギー疾患に長期使用する場合の基礎的知見として価値あるものと認める。

よって本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。